



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2011 : 年次記録 : 未来の「いのち」のためにひとり一人が「持続可能な社会」を再考する
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65264
Type	report
File Information	chapter-1.pdf,



1. サステナビリティ・ウィーク 2011 の概要

本年の特徴

- ・開催テーマ : ひとり一人が再考する
- ・企画実施期間 : 2011 年 9 月 25 日～12 月 3 日
 - コア期間 : 2011 年 10 月 24 日～11 月 6 日
- ・企画数 : 47 企画
- ・参加者数 : 9,895 人
- ・特筆事項 :
 - 2011 年 3 月 11 日に東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が起き、東北地方のみならず世界に被害をもたらした。これをきっかけに、望まれる社会とはどのようなものか、ひとり一人にできることは何かを再考する機会を提供すべく、当年のテーマを決定した。
 - 福島第一原子力発電所事故を理由に、来日者数の減少が予想された。そこで、世界のどこに居てもサステナビリティ・ウィークに参加できる新たな企画の開発に迫られ、インターネット・フォーラム「GiFT ～Global Issues Forum for Tomorrow～」が発案された。初年度は試験的に日本国内の居住者を対象に定め、日本語運用可能なソーシャル・ネット・ワーキングサービス（SNS）を駆使して取り組んだ。10 月 30 日には、北海道大学の 12 人の研究者が、現代の課題についての考えをインターネット生放送で発信し、聴衆者から質問やコメントを受け付けた。
 - フィンランド国が 2011 年に北海道大学内に「フィンランドセンター北海道事務所」を開設し、2012 年に北海道大学がヘルシンキにオフィスを設置することから、今後の協働関係を発展させるべくフィンランドの諸機関と共催して「北海道ーフィンランド・デイズ」と冠した 4 つの行事を初めて開催した。
 - 2008 年に世界の 34 大学によって採択された「札幌サステイナビリティ宣言」を具現化すべく同年 11 月開設されたサステイナブルキャンパス推進本部は、開設以来はじめて「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム」を 10 月 26 日に開催した。ところ、国内外から 162 名が参加した。

❖ 総長あいさつ

東日本大震災で大きな被害を受けられたすべての方々に、深くお見舞い申し上げます。また、救援活動に尽力されている方々に、この場をお借りしまして心より敬意を表します。一日も早い復興のため、本学としましても総力を挙げて支援にあたらせていただく所存です。

この度の大震災により、私たちが自然の猛威と常に隣り合わせに生きているということを改めて気付かされました。人は決して自然を支配することはできません。しかしながら、ひとり一人が意識を共有し、家族や地域社会において互いを思いやりながら結束することで、多くの困難を克服し発展していくことができるのではないかという確信を持ちました。

そのためには、我々高等教育機関はどの方向へ新たな歩みを踏み出せばよいのでしょうか。自然災害に備えた地域づくり、エネルギーと食糧の安定的確保、環境の保全などの課題に解決を見出そうとするとき、はたしてこれまでの延長線上に未来を描くことができるのでしょうか。

5回目を迎えた2011年のテーマは「ひとり一人が再考する」。続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために、これまでの歩みを振り返り、すべての人々にとってサステナブルな社会とは何か、そしてその実現のために私たちにできることは何かを共に考え、未来への一歩に繋がられる機会となりますよう、切に願っております。



北海道大学 総長 佐伯 浩

2011年8月
北海道大学
総長 佐伯 浩

北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2011

10.24 オープニング・セレモニー

第3版

未来の「いのち」のために
ひとり一人が
「持続可能な社会」を再考する



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



With the Support of
UNESCO

東日本大震災で大きな被害を受けられたすべての方々に、深くお見舞い申し上げます。
また、救援活動に尽力されている方々に、この場をお借りしまして心よりの敬意を表します。
一日も早い復興のため、本学としても総力を挙げて支援にあたらせていただく所存です。

この度の大災害により、私たちが自然の猛威と常に隣り合わせに生きているということを改めて気付かされました。人は決して自然を支配することはできません。しかしながら、ひとり一人が意識を共有し、家族や地域社会において互いを思いやりながら結束することで、多くの困難を克服し発展していくことができるのではないかと確信を持ちました。

そのためには、我々高等教育機関はどの方向へ新たな歩みを踏み出せば良いのでしょうか。自然災害に備えた地域づくり、エネルギーと食糧の安定的確保、環境の保全など世界が共通に抱える課題を乗り越えて持続できる社会の実現のため、多くの人が集まって共に考える機会を、北海道大学は「サステナビリティ・ウィーク」と名づけ、2007年以来毎年開催しています。

5回目を迎えた2011年のテーマは「ひとり一人が再考する」。続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために、これまでの歩みを振り返り、すべての人々にとってのサステナブルな社会とは何か、そしてその実現のために私たちにできることは何かを共に考え、未来への一歩に繋げられる機会となりますよう、切に願っております。



北海道大学 総長
佐伯 浩

1 10月24日(月)

オープニング・セレモニー



未来へ向けた一歩

2週間のウィーク行事が
はじまるのを記念して
北海道大学の
取り組みを紹介します。

2 10月30日(日) 13:00 ~ 18:00

GIFT 2011 持続可能な世界へ12のメッセージ

a 私たちが直面しているエネルギー問題、食糧不足、自然環境の劣化など、どれを解決するにもいろいろな分野の専門家の協力が欠かせません。持続させるに足る社会をどのように作るか、自然の恵みをこの先もずっと受けていくにはどうしたらよいか、常に考えている北海道大学の12人の研究者が、世界が抱える重要課題についてメッセージを送ります。

b インターネットで生中継 (招待状をお持ちの方は会場にお入りいただけます)

http://www.ustream.tv/channel/sw2011

Twitter: @SW2011_HU

Facebook http://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u

c 日本語 d 不要・当日 Ustream にアクセスください

e 北海道大学

f サステナビリティ・ウィーク事務局

TEL: 011-706-8031 FAX: 011-706-8036

E-mail: office1@sustain.hokudai.ac.jp



北海道 - フィンランド デイズ

3 10月28日(金) 10:00~

オープニングセッション ~持続可能な連携のために~

a フィンランドのオウル大学、ヘルシンキ大学、ラップランド大学等の代表を迎え、北海道とフィンランドの持続的な連携を目指して今何をすべきかを考えます。また、大学紹介や参加者との質疑応答の機会もあります。北方圏への留学、研究交流に関心のある学生、研究者は必見です!

b 北海道大学 百年記念会館 大会議室 c 日本語・英語(通訳あり)

d 不要(無料) e フィンランドセンター北海道事務所 f 北海道大学

4 10月31日(月) 10:00~

北方圏の環境研究に関するシンポジウム

a 温暖化により急激に変化する北方圏の環境。国境を越えて多国間で連携して取り組むスキームの構築が必要です。生物多様性、人々の生活様式の変化、新たな観光資源となるか。北海道とフィンランドとの連携を通して考えていきたいと思います。北方圏の環境に興味がある学生、若手研究者の参加大歓迎です。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(通訳あり) d 不要(無料)

e フィンランドセンター北海道事務所 f 低温科学研究所

5 11月1日(火) 10:00~

国際シンポジウム「北方のツーリズムと景観」

a 近年、北方圏の発展における観光・ツーリズムの役割に注目が集まっていますが、それと同時に、その対象となる景観、環境さらには土地利用のあり方も重要な問題です。午前のセッションでは観光・ツーリズムに焦点を当てるとともに、そこでの北方先住民族を含む地元住民の役割を考えます。午後のセッションでは、景観と土地利用をテーマとし、社会や気候の急激な変化のなかで先住民族が直面している諸問題や、環境保全や生物多様性の保護に対する先住民族の関わりについて、サミーとアイヌ民族の事例を取り上げることにします。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(通訳あり) d 不要(無料)

e フィンランドセンター北海道事務所 f アイヌ・先住民研究センター、観光学高等研究センター

6 11月2日(水) 10:00~

国際シンポジウム「先住民族と教育」

a フィンランドは世界有数の教育先進国として知られていますが、先住民族に関する教育でも特色ある取り組みを行っています。我が国でもアイヌ民族の言語・文化に係る教育の重要性に注目が集まっています。午前のセッションでは、先住民族を含む地域社会における民族文化の伝承、とりわけ学校教育における実践について取り上げ、効果的で持続可能な文化伝承のあり方を考えます。午後のセッションでは、民族文化の核心とも言われる言語を取り上げ、教育現場さらにはメディアを通じた言語教育の可能性を追求します。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(通訳あり) d 不要(無料)

e フィンランドセンター北海道事務所 f アイヌ・先住民研究センター

g フィンランドセンター北海道事務所(担当: チュリセヴァ マルティナ)

TEL: 011-726-2000 FAX: 011-726-2005 E-mail: martina.tyriseva@finstitute.gr.jp http://www.finstitute.gr.jp/

【凡例】

行事名

- a 概要 b 会場 c 講演言語
- d 申し込み e 主催
- f 共催 g 問い合わせ先

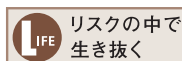
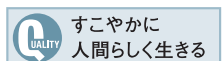
日時



このマークが付いている行事は、ウェブサイトから参加の申し込みができます。

【参加申込み】 <https://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/application/>

バックの色は
各行事の категориーを
表しています。



北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2011

人間の持続性 [Sustainability] を
みんなで考える週間です。



リスクの中で 生き抜く



自然災害と人的災害が多発するこの世界で生きるための
最善の方策を、予防と対応の両面から考えます。

7

10月16日(日) 13:30~

「健康を創る最先端技術と健康マネジメント」

- ① 自らの健康は、自らが創りだす時代がきています。そのために、健康リスクを瞬時に把握し、疾病を予防する最先端計測技術と的確な健康情報ネットワークシステムが必要です。疾病や老化に関係するストレスを血液中酸化脂質の測定で評価する液体クロマトグラフィー質量分析法、カーボンナノチューブ・センサーの研究を紹介します。これらの評価系を世界中で活用する仕組みづくりについても紹介します。さらに、薬局と大学を結び、産学官が連携した遠隔健康相談システムの可能性について技術面、運用面、政策面から議論するとともに、本実証実験を拡張した東日本大震災の被災支援についても報告します。
- ② 北海道大学 保健科学研究院 会議室 ③ 日本語 ④ 不要(無料) ⑤ 北海道大学保健科学研究院 ⑥ さっぽろバイオクラスター “Bio-S” ⑦ 北海道大学保健科学研究院事務 TEL:011-706-3315 E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp http://www.hs.hokudai.ac.jp ●後援:(財)さっぽろ産業振興財団

8

10月22日(土) 9:30~

現代社会におけるリスク分散のあり方と環境教育

- ① 持続可能な開発のための教育を軸に、今回の東日本大震災の甚大な被害を見据えて、現代社会におけるリスク分散のあり方と、環境教育を通じたリスク管理の啓発について考えます。とくに農業・漁業・生態の視点から、現場の報告や持続可能なシステム構築に向けた提案を行い、東日本大震災にみられた現代社会ゆえに生じたともいえる巨大リスクにどう対応するべきか、そしてリスク管理に対する環境教育のあり方について討議検討を行います。
- ② 北海道大学 学術交流会館 小講堂 ③ 日本語・英語(通訳あり) ④ 不要(無料)
- ⑤ サステナビリティ学教育研究センター(CENSUS) ⑥ 秋田大学 ⑦ サステナビリティ学教育研究センター(担当:百田) TEL:011-706-4586 FAX:011-706-4534 E-mail: jj-admin@census.hokudai.ac.jp http://www.census.hokudai.ac.jp/html/JSTJICA/

9

10月23日(日) 9:30~15:00

シンポジウム「被災地の復興と人材育成 ー 持続的社会構築のための社会起業の可能性」

- ① 被災地では持続的な社会システムを構築する、社会起業の役割と可能性に期待が高まっています。本シンポジウムでは、アジアやアフリカの発展途上国における社会起業の経験について報告のほか、東日本大震災の被災地復興のために活動している方々から、現場の状況やニーズに関する意見を伺います。そして、一般企業の代表を交えて、被災地のニーズを反映しつつ持続的な社会システムを構築するための社会起業家に必要とされる要素と、それを率先して行う人材育成のあり方について議論します。
- ② 北海道大学 学術交流会館 小講堂 ③ 日本語・英語(通訳あり) ④ 不要(無料) ⑤ サステナビリティ学教育研究センター(CENSUS) ⑥ サステナビリティ学教育研究センター(担当:田中) TEL:011-706-4530 E-mail: jimu@census.hokudai.ac.jp http://www.census.hokudai.ac.jp

調和を見いだす



自然の恩恵を意識しつつ、
環境を損なわずに暮らす道を模索します。

13

10月22日(土)・23日(日) 8:45~

GM どうみん議会

- ① 「GM どうみん議会」は、市民参加型テクノロジーアセスメントの手法である市民陪審をもとにした、GM juryの仕組みを下敷きにしています。15人の一般市民が、専門家にヒアリングをしながら、ある課題についてグループ討論と全体討論を組み合わせることで議論をし、課題に対する回答をまとめ、メディアに向けて公表するというものです。この「GM どうみん議会」を出発点として、今後はGM作物のリスクをどう受け止めるかについて、道民とともに考え議論し形にする場を学内にもつくりたいことも目指しています。
- ② 北海道大学 遠友学舎 ③ 日本語 ④ 必要(無料) E-mail、電話にて受付9/22~10/14まで
- ⑤ GM どうみん議会実行委員会 ⑥ 北海道大学農学研究院 RIRICはなしてガッテンプロジェクト「アクターの協働による双方向的リスクコミュニケーションのモデル化研究」(PJ) TEL:011-706-4129 E-mail: riric@agr.hokudai.ac.jp http://www.agr.hokudai.ac.jp/riric/

10

10月31日(月) 13:30~

ジョイント公開講演会: 「持続可能な都市システムの構築をめざして」

Web

- ① 少子高齢化、財政健全化、高度技術社会、環境負荷低減、地方分権、縮小均衡などを特徴とする21世紀の日本。そこで、人々が豊かで安全に暮らす都市インフラシステムの実現と、継続のための課題抽出と、その解決策の提案を目的に、多分野の専門家間、そして一般市民との間で情報交換を行います。人々の豊かな生活を継続的に守り抜くための課題抽出と解決策の提案のために、情報や意見を交換しませんか。
- ② 北海道大学 学術交流会館 講堂 ③ 日本語 ④ 必要(無料) ウェブサイトにて受付10/28まで ⑤ 北海道大学工学研究院北方圏環境政策工学部門・環境フィールド工学部門
- ⑥ 東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際センター ⑦ 工学研究院北方圏環境政策工学部門(担当:横田) TEL&FAX:011-706-6204 http://www.eng.hokudai.ac.jp/edu/course/civileng/ http://icuis.iis.u-tokyo.ac.jp/

11

11月3日(木) 13:00~

ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ: 「あの日からの復興ー保健科学の視点からー」

- ① 第1限目:伊達広行教授が原発事故によってクローズアップされた放射線の問題を解説します。第2限目:河原田まり子教授が被災地の人々の心身両面にわたるケアをどのようにするべきかを解説します。第3限目:小笠原克彦教授が最近話題となっている遠隔地と北大をテレビ電話でつなぐ高度遠隔健康相談システムを用いて、被災地と北大を結んで行った健康相談について解説します。各講演者が保健科学の視点から詳しくかつ分かりやすく解説します。
- ② 北海道大学大学院 保健科学研究院 3-1 講義室 ③ 日本語 ④ 必要(無料) E-mail、電話にて受付10/28まで ⑤ 北海道大学保健科学研究院
- ⑥ 北海道大学保健科学研究院事務課 TEL:011-706-3315 E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp http://www.hs.hokudai.ac.jp/

12

11月3日(木) 13:30~

環境・エネルギーシンポジウム ー 震災復興、自然エネルギー、北海道の力ー

Web

- ① 福島原発事故や各地の原発稼働停止等による電力不足の中で、自然エネルギーの開発・利用と中長期的な見通しが切実に必要とされています。豊かな自然に恵まれた北海道は、全国に先駆けて次世代型自然エネルギーのあり方を示すことができるはずです。本シンポジウムでは、自然エネルギー政策に携わる行政担当者、研究者、実務家による講演、パネルディスカッションを通じて、日本の自然エネルギー政策と北海道の潜在力を市民と共に考えます。
- ② 北海道大学 学術交流会館 講堂 ③ 日本語 ④ 必要(無料) ウェブサイト、E-mail、電話、FAXにて受付 ⑤ 公共政策学連携研究部、北大低炭素社会づくりプロジェクトチーム
- ⑥ 環境省北海道地方環境事務所 ⑦ 環境省北海道地方環境事務所 環境対策課(担当:細貝) TEL:011-299-1952 FAX:011-736-1234 E-mail: reo-hokkaido@env.go.jp

14
10月22日(土)
9:00 開会式
9:30 開始

第8回プレゼン・ディベート大会 札幌市の交通デザイン

a 北海道大学の様々な分野の学部生や大学院生がチームを組み、「札幌市の交通デザイン」をテーマに独自のアイデアを発表(プレゼン)し、論戦(ディベート)の中でその長短所を検証します。8回目となる今年は、少子高齢化の急速な進展、経済活力の低下、低炭素型都市の実現など、様々な課題を抱える札幌市交通事情。その問題点を把握する中から、将来的に札幌の交通戦略をいかに構築していくかという提言を競います。市民、高校生、大学生、院生、地域交通関係者のご来場をお待ちしています。

b 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W103、102、101、202 **c** 日本語

d 不要(無料) **e** 北海道大学経済学部 **f** 北海道大学経済学部主催「第8回プレゼン・ディベート大会」運営事務局(担当:塚田)TEL&FAX: 011-706-4066
E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp

15
10月26日(水) 10:00~

サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2011


a 大学のサステイナビリティを支えるハードとしてのキャンパスとソフトとしての諸活動の両面からの視点で、米国及び日本におけるサステイナブルキャンパスに関するトップランナーの大学から、これまでの取組(Achievements)やこれからの課題(Challenges)について紹介いただき、サステイナブルキャンパス構築に向けた今後の方向性を検討します。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語・英語(通訳あり) **d** 必要(無料)ウェブサイト、E-mailにて受付10/24まで **e** スステイナブルキャンパス推進本部

f サステイナブルキャンパス推進本部(担当:松原)
TEL:011-706-3660 E-mail: office@osc.hokudai.ac.jp

16
10月30日(日) 13:30~(展示は終日)

Greenerになろう! 持続可能な北海道のために
ーグリーン購入促進に向けた展示及びパネルディスカッションー

a 10年以上前に発足したグリーン購入の環は、日用品、家具・家電からグリーン電力、オフセットなどへと広がっています。今回は、学生と、生産者、消費者の代表がパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から身近に実践できることを一つでも広げられるよう、意見交換を通じてオール北海道での先進的な取り組みを目指します。同時に、グリーン購入に取り組む団体によるパネル展示も行います。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語 **d** 不要(無料) **e** 北海道グリーン購入ネットワーク

f 北海道大学文学研究科社会心理学研究室 **g** 北海道グリーン購入ネットワーク(担当:大内)
TEL:011-222-0234 FAX:011-222-0235
E-mail: staff@hokkaido-gpn.org
http://www.hokkaido-gpn.org/contents/2008/01_000011.php

17
11月2日(水) 13:00~

産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来Ⅲ

a 新しいデジタル地図として『地理空間情報』が日本全国で整えられつつあり、『地理情報システム(GIS)』や『衛星測位』の技術とともに活用することで、新しい社会を築こうとする動きが活発になっています。そこで、企業・大学・官庁における地理空間情報の活用を、わかりやすく解説します。特に、北海道の代表的産業である農業や観光に関する地理空間情報の活用に関して、最新の動向をお話します。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語 **d** 不要(無料) **e** 北海道大学文学研究科

f GIS学会北海道地方事務局、北海道GIS・GPS研究会、NPO法人Digital北海道研究会

g 北海道大学文学研究科(担当:橋本)
TEL&FAX:011-706-4019 E-mail: you@chiri.let.hokudai.ac.jp

18
11月4日(金) 18:30~20:30

ドキュメンタリー映画「タイガからのメッセージ」
特別試写会 in 札幌


a ロシア沿海地方に位置するビキン川流域に広がる原生の森・タイガ。映画「タイガからのメッセージ」では、ビキン川流域の四季の自然や、そこで森と共に暮らす人々の生活・思いなどタイガの魅力を世界の皆さんと共有します。この場所を未来に残していくために何をすべきなのかを考え、私たちがこれから未来に進む方向性を探るヒントを得る機会となるでしょう。ロシアや、森林保護のみならず、私たちの持続可能な未来づくりについて関心のある人の参加をお待ちしています。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 **c** 日本語 **d** 必要(無料)ウェブサイト、E-mail、電話、FAXにて受付11/3まで **e** (財)地球・人間環境フォーラム **f** 北海道大学 低温科学研究所 他

g タイガの森フォーラム／地球・人間環境フォーラム(担当:坂本) TEL: 03-3813-9735
FAX:03-3813-9737 E-mail: info@taigaforum.jp http://taigaforum.jp

19
11月4日(金)

グリーン回路とシステムに関する国際ワークショップ

a 本ワークショップでは、次世代無線ネットワークや、動画像処理や音響・音声処理などを含むマルチメディア情報処理システム等の最先端情報システムに関係する低消費電力化技術や人に安全なシステム技術を紹介します。この分野において世界的に著名な先生の招待講演を行い、さらに、大学院生による最新の成果発表等も企画することで、セミナー形式だけではなく、最新技術に関する活発な意見交換を行う予定です。

b 北海道大学 情報科学研究科棟 11F17号室 **c** 英語 **d** 不要(無料) **e** 北海道大学情報科学研究科グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」

f 情報科学研究科グローバルCOE事務局
FAX:011-706-7890 E-mail:gcoe@ist.hokudai.ac.jp
http://www.gcoe.ist.hokudai.ac.jp

20
11月5日(土)・6日(日) 10:00~

第2回 アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合

a 近年の地球温暖化やアムール川流域の急速な開発によるオホーツク海への問題を未然に防ぐべく、日本・ロシア・中国・モンゴルの間で設立された、多国間学術ネットワーク“アムール・オホーツクコンソーシアム”の第二回目の国際会議です。市民と学生にも参加してもらい、越境環境という地域の共有財産をいかにして保全し、未来世代へと引き継ぐかを学際的な立場から議論することを目的としています。国際的な環境保全の枠組み作りに興味のある学生さんと市民の参加をお待ちしています。

b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 **c** 日本語・中国語・ロシア語(通訳あり) **d** 必要(無料) E-mail、FAX、はがきにて受付11/1まで※先着120名まで **e** 北海道大学 低温科学研究所 他

f 北海道開発局 他 **g** 北海道大学 低温科学研究所(住所:〒060-0819札幌市北区北19条西8丁目)アムール・オホーツクコンソーシアム事務局(担当:篠原)TEL:011-706-7664
FAX:011-706-7142 E-mail: ao-consortium@pop.lowtem.hokudai.ac.jp

21
11月5日(土) 10:30~

全球陸域プロジェクト(GLP)オープン・ワークショップ:
アジアの陸域システムの脆弱性、回復力、持続性

a 北海道大学には全球陸域プロジェクト(GLP)札幌拠点オフィスが設置されており、土地利用・土地被覆変化による陸域システムの脆弱性、回復力、持続性に関する研究が、国際的な研究ネットワークのもとに進められています。このワークショップでは、札幌拠点オフィスの活動の一環として、ネパール・トリバン大学と北海道大学との共同研究を含めた、アジアの土地利用・土地被覆変化に関する研究成果について、講演・意見交換を行います。

b 北海道大学 百年記念会館 大会議室 **c** 英語 **d** 不要(無料) **e** 全球陸域プロジェクト(GLP)札幌拠点オフィス **f** トリバン大学、IFES-GCOE「統合フィールド環境科学の教育拠点形成」国際プロジェクト推進室 **g** 地球環境科学研究院(担当:渡辺)
TEL&FAX:011-706-2213 E-mail: twata@ees.hokudai.ac.jp

22
11月6日(日) 13:00~

パブリック・フォーラム:
ヒマラヤからみた温暖化ー氷河の変動と災害

a ヒマラヤの氷河はどれくらい融けていて、氷河が融けることで生じると言われている氷河湖決壊洪水は、ヒマラヤに住む人々や世界中から集まるトレkkerに対してどのような影響を与えているのか? 氷河湖決壊洪水の発生の可能性は、どれくらい大きいのか? ネパール・トリバン大学と北海道大学の先生が分かりやすくお話しします。
話題提供者:ナレンドラ・ラジ・カナール(トリバン大学地理学教室・教授)・渡辺悌二(北海道大学地球環境科学研究院・教授) 司会:ネパール人留学生

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語・英語(通訳あり) **d** 不要(無料)

e 地球環境科学研究院 **f** トリバン大学、全球陸域プロジェクト(GLP)札幌拠点オフィス、IFES-GCOE国際プロジェクト推進室 **g** 地球環境科学研究院(担当:渡辺)
TEL&FAX:011-706-2213 E-mail: twata@ees.hokudai.ac.jp

23
11月6日(日) 14:00~

学生企画

サステイナブルキャンパスコンテスト

a 北海道大学を学生のアイデアで「持続可能なエコキャンパス」にしよう!という想いから、学生によるサステイナブルキャンパスコンテストを実施します。当日は、学生の自由な発想や研究成果の応用を活かした多様なプロジェクト案が発表される予定です。様々なアイデアを持つ学生からの企画応募をお待ちすると共に、環境やサステイナブルキャンパス、学生のアイデアに興味をお持ちの学生・市民の方々のご来場を心よりお待ちしております。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 **c** 日本語 **d** 不要(無料)

e SCSD(The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University) **f** SCSD(担当:高石)E-mail: hp104213@hops.hokudai.ac.jp

すこやかに 人間らしく生きる



ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態(Well-being)で質の高い生活(Quality of Life)を送ることのできるコミュニティをつくります。

24 10月26日(水) 13:30~

現代社会の呪縛構造—社会環境・生活習慣に潜む病根—

- a 都市化と産業化による複雑な社会環境は、人々の健康を左右する構造的連関を持っており、単眼的視点からは解決できません。健康は個人的な課題ではなく、文化的背景や人間関係を含む多様な社会環境および日常の生息・生活環境から影響をうけています。国際的視点から、それぞれの社会が置かれた実態や諸条件について情報交換を行い、課題の抽出とその克服の展望について議論します。都市化、および健康的な生活、衛生、食等に興味がある学生、市民の参加を期待しています。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(通訳あり) d 必要(無料)ウェブサイト、E-mail、電話、FAXにて受付 e 北海道大学環境健康科学研究教育センター
- f 北海道大学教育学研究院、保健科学研究院、医学研究科
- g 環境健康科学研究教育センター(担当: 荒木・高松)
TEL:011-706-4747 FAX:011-706-4725 E-mail: info@cehs.hokudai.ac.jp

25 10月26日(水) 17:00~

JSPS 東アジア若手研究者招聘セミナー「口腔科学を通じた持続可能な国際交流」

- a 北海道大学と大学間協定を結んでいるタイのマヒドン大学より若手研究者を招聘して、両校の若手研究者を中心としたセミナーを行います。現在までの両校歯学部間の協力関係について、双方の若手研究者に知ってもらうとともに、口腔科学に貢献できるようなこれからの協力関係についても、双方の若手研究者に考察してもらい、この協力関係が次の世代に伝わっていくような環境を整える機会にします。歯科医師、研究者、北海道大学内・外の留学生、特にタイからの留学生のご来場をお待ちしています。
- b 北海道大学 歯学部 講堂 c 日本語・英語(一部通訳あり) d 不要(無料) e 北海道大学大学院歯学研究科 f 日本学術振興会(JSPS)、北海道大学歯学部歯科矯正学教室 同門会 g 北海道大学歯学研究科(担当: 梶井) TEL&FAX:011-706-4917 E-mail: kajii@den.hokudai.ac.jp

26 10月27日(木) 13:00~

社会格差への教育の挑戦

- a 自由と平等を目指した現代社会は、産業化と経済発展の陰に、国際的にも、国内的にも、所得格差、健康格差、教育格差など多様な不平等と不公平をもたらしています。その社会構造を支え、多くの現代人が信奉する「個人主義」は、一方で「社会関係資本」という人間相互のコミュニケーションによる社会的な重要性を意識し始めました。コミュニケーションを介した相互努力、相互発展としての教育が、人間社会の持続的発展に果たすべき役割と課題を確認し、現代の私たちが乗り越えるべき障壁と次世代に繋ぐべき試みについて議論します。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語 d 必要(無料)ウェブサイト、E-mailにて受付(edkyomu@edu.hokudai.ac.jp) e 北海道大学教育学研究院
- f 韓国協定校(予定) g 教育学事務部 庶務担当
TEL:011-706-3082 FAX:011-706-4951 E-mail: shomu@edu.hokudai.ac.jp

27 10月27日(木)・28日(金) 13:00~

日本セラミド研究会第4回学術集会

- a セラミド研究会主催と知的クラスター Bio-S 共催でセラミドの生理機能や機能性食品としての可能性に関して海外からの講演、招待講演4代も含め、広く演題を公募して発表討論を行います。学術集会としては4回目となっています。この結果は「健康科学新聞」等で広く社会にリリースされる予定です。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・英語 d 必要(学生は無料、その他は有料:8000円)ウェブサイトにて受付8/1~9/9まで e 日本セラミド研究会第4回学術集会 f 先端生命科学研究院、知的クラスター事業サポーター Bio-S
- g 先端生命科学研究院(担当: 五十嵐) TEL:011-706-9001

28 10月28日(金) 9:30~

国際シンポジウム「アフリカ・サブサハラにおける衛生問題に対する挑戦」

—持続可能な水と衛生に関する第2回 AMERI-EAUR ワークショップ/第8回持続可能な衛生に関する国際会議—

- a 「水を媒体とするすべての病気は貧困によって悪化し、さらに貧困の原因となる」といわれています。国連のミレニアム開発目標における水衛生分野の目標達成に世界中の努力が傾注されていますが、アフリカ・サブサハラ地域での達成が世界で一番厳しい状況にあります。本シンポジウムでは、JICA/JSTによる地球規模課題の国際共同研究事業の成果をもとに、サブサハラにおける水・衛生問題解決について議論を行います。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 英語 d 不要(無料) e 北海道大学工学研究院
- f JST、JICA、2iE、ブルキナファソ政府農業省 g 北海道大学工学研究院環境創生工学専攻 サニテーション工学研究室(担当: 細川) TEL&FAX: 011-706-6270 E-mail: ubnwttrse@eng.hokudai.ac.jp http://www.eng.hokudai.ac.jp/lab0/UBNWTTRSE/project/jst-jica/

29 10月29日(土) 13:00~

国際シンポジウム「ワーク・ライフ・バランス:持続可能な幸福の追求」

- a 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」では、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」の実現を目指して3つの柱を立てました。本シンポジウムではその一つ「多様な働き方・生き方が選択できる社会」にジェンダーの視点で着目し、「持続可能な幸福の追求」のための提言を行います。
- b 北海道大学 クラーク会館 c 日本語・英語(通訳あり) d 不要(無料) e 北海道大学文学研究科 応用倫理研究教育センター g 文学研究科 応用倫理研究教育センター(担当: 瀬名波) TEL:011-706-4085 E-mail: june@let.hokudai.ac.jp http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/events/2011/worklife http://ethics.let.hokudai.ac.jp/ja/events.html#2011_1swlb

30 10月29日(土) 14:00~・30日(日) 9:30~

地域医療フォーラム

- a 医師不足が起因となって崩壊の危機にある地方の医療を守るために、住民と行政はどのような共同作業ができるのか、その可能性について議論します。持続可能な地域社会を実現するには、もはや医療従事者のみに健康を守る活動を任せてはられない状況です。住民、行政、福祉従事者そして医療従事者が、それぞれの役割と課題を明確にした上で協働する仕組みが必要です。医療と福祉の質の向上に関心を持つ、大学生、市民、自治体、専門家の参加をお待ちしております。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 日本語 d 必要(無料)ウェブサイト、E-mailにて受付
- e 北海道地域医療研究会、地域医療教育研究所 f 北海道大学病院卒後臨床研修センター
- g 北海道大学医学研究科医療統計・医療システム学分野(担当: 二階堂)
TEL:011-706-7005 FAX:011-706-7628 E-mail: nikaido@med.hokudai.ac.jp

31 11月4日(金) 13:00~

健康な高齢社会の構築と持続可能な発展

- a 人口の高齢化の問題は複雑・多岐にわたるとともに、世界的規模で急速に進展しています。各国は、地球上の限られた資源の世代間の公平性などに配慮した持続可能な発展の概念の下で、それぞれの状況に合わせた戦略を確立することが求められています。本企画では、「健康な高齢社会」の構築をテーマに、医学、人口学、社会学、福祉工学などを専門とする国内外の研究者が健康・介護・福祉の現状と将来展望について報告し、一般市民を交えて意見交換を行います。
- b 北海道大学 医学部 1F フラテホール c 日本語・英語(通訳あり) d 不要(無料)
- e 北海道大学医学研究科 f 北海道大学工学研究科 g 北海道大学医学研究科 国際保健医学分野 FAX:011-706-7374 E-mail: sw2011@ghe.med.hokudai.ac.jp http://ghe.med.hokudai.ac.jp/sw2011/(公開予定)

32 12月3日(土) 10:00~

「痛っ」のサイエンス

- a 疼痛の違いとその理由について、日常に起こりうる状況を紹介しつつ、わかりやすく解説します。マッサージ棒で筋肉を押さえた時、どこまでの圧力を「圧力」と感じ、その圧力をどこまで気持ちよく感じ、そしてどこからその圧力を疼痛として感じるのか。また、疼痛と感じる点(疼痛閾値)はどのような影響を受け、どのように変化するかについても実験データをもとに解説します。最後にこれら疼痛に対してどのように対応すればよいのか、日常生活の例を挙げて実験データをもとに紹介をします。
- b 北海道大学 歯学部 講堂 c 日本語・英語(通訳あり) d 必要(無料)ウェブサイト、E-mailにて受付12/1まで e 北海道大学歯学研究科 g 北海道大学歯学研究科(担当: 有馬) TEL:011-706-4275 FAX:011-706-4276 E-mail: tar@den.hokudai.ac.jp

未来への学び



叡智(えいち)や課題を分かち合い共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育みます。

33

9月25日(日) 13:30~

日韓中テレビ制作者フォーラム 国際シンポジウム「東アジアとメディアの新たな可能性」

- a 持続可能な成長を進展させるためにも、いま、メディアのあり方が問われています。特に東日本大震災の情報は、テレビメディア映像を通じてそのインパクトと共に瞬時に全世界に拡散していきましました。本シンポジウムでは、日本・韓国・中国のテレビ制作者による会議(第11回日韓中テレビ制作者フォーラム)と連携して、東日本大震災をめぐって日本のメディアは何を伝えたのか、そして、韓国・中国のメディアではどのように伝えられたのかを確認しながら「東アジアとメディアの新たな可能性」を議論します。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・中国語・韓国語(通訳あり) d 不要(無料)
- e メディア・コミュニケーション研究院附属 東アジアメディア研究センター f メディア・コミュニケーション研究院 g メディア・コミュニケーション研究院(担当:北見) TEL:011-706-6940 E-mail: ceamsinfo@imc.hokudai.ac.jp http://ceams.imc.hokudai.ac.jp/

34

10月23日(日) 17:00~

学生企画

キャンドライズ 2011

- a 夜間に街灯を消し、廃油から作ったキャンドルやリサイクルキャンドルを灯します。キャンドルの幻想的な明かりの中で市民、学生が環境問題・持続可能性について考えるきっかけとなるイベントです。

- b 北海道大学 中央ロウン d 不要(無料) e SCSD(The Students Council for Sustainable Development in Hokkaido University)
- g SCSD(担当:高石) E-mail: hp104213@hops.hokudai.ac.jp

35

10月24日(月)~11月6日(日)

9:00~16:00:
天候等により変更あり

ベロタクシー DE おしゃべり&ECO2011

- a 昨年大好評だったベロタクシーが、今年も北海道大学を走ります。ドライバーは環境を学ぶ学生です! CO2排出ゼロの乗り物で、北大の環境をお楽しみください。ご乗車お待ちしています!
- b 北海道大学 札幌キャンパス内路上 c 日本語・英語 d 不要(無料) e 北海道大学大学院環境科学院IFES-GCOEプログラム環境教育研究交流推進室 f 北海道グリーン購入ネットワーク・特定非営利活動法人エコモビリティ・サッポロ
- g 北海道大学IFES-GCOEプログラム環境教育研究交流推進室(担当:吉村) TEL:011-706-3355 E-mail: ynobu14001@ees.hokudai.ac.jp http://gcoe.ees.hokudai.ac.jp/reo/

36

10月25日(火)~10月30日(日) >> CT: 10月26日(水) 9:00-12:30
11月1日(火)~11月6日(日) >> CT: 11月2日(水) 13:00-16:30

第3回サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト

- a 北海道大学の学生が、自らの研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直し、ポスターにまとめ日本語もしくは英語で発表します。100枚余のポスターは、2週間に分けて掲示されます。水曜日には「コミュニケーション・タイム(CT)」が設定され、発表者がポスターの説明をし、来場者と審査員の質問に答えます。優秀な発表には賞が授与されます。学生が未来をどう描いているのか、研究ポスター発表とはどのようなものかを知る機会です。市民、企業の人事担当者、他大学の学生など、どなたでもご来場いただけます。
- b 北海道大学 学術交流会館 ホール c 日本語・英語 d 不要(無料) e 北海道大学
- g サステナビリティ・ウィーク事務局 TEL: 011-706-8031 FAX: 011-706-8036 E-mail: office1@sustain.hokudai.ac.jp

37

10月31日(月)

留学希望者向けセミナー:SD on Campus



- a 北海道大学が協定を結んでいる海外の大学の代表者が、自らの大学の魅力をアピールします。集まるのは「持続可能な社会の実現(SD)」のための研究と教育に力を入れている大学ばかりです。留学に興味のある人、他大学のSDの取り組みに関心のある人は、この機会をお見逃しなく!
 - b 未定 c 日本語・英語(通訳あり) d 必要(無料)ウェブサイトにて受付 e 北海道大学国際本部
 - g 北海道大学国際本部 国際支援課(担当:河野) TEL:011-706-8053 E-mail: jryugaku@oia.hokudai.ac.jp http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/events/2011/abroad ※8月31日現在
- 詳細はウェブサイトでご確認ください。

38

11月2日(水)~11月4日(金) 2日19:00~、3・4日9:30~

遊ぶ・学ぶ・働く 一持続可能な発達の支援のために一

- a 「人が育つ」ことが難しくなり、その支援にあたる人々が直面する困難も深刻になっていきます。発達の可能性が抑制されることがないという意味で持続可能な発達の論理とそのような発達を保障する社会を築く展望を、精神医学・心理学・社会学・教育学等の専門家・実践者が境界を超えて討議します。以下のセッションを予定しています。
A:遊びと発達 B:学校の境界線上における学びと新たな学校像 C:労働の場での発達 D:発達と障がい E:人が育つ社会を再考する
- b 11/2(水)・3(木) 人文・社会科学総合教育研究棟W棟103、11/4(金)教育学部会議室(教育学部研究棟3階305) c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学教育学研究院附属 子ども発達臨床研究センター
- g 北海道大学教育学研究院(担当:宮崎) TEL&FAX:011-706-3495 E-mail: miyazaki@edu.hokudai.ac.jp http://www.edu.hokudai.ac.jp/

39

11月2日(水)~6日(日)

学生企画

CLARK THEATER 2011

- a 「映像・映画を通じたコミュニケーションの場の創造」を目指し、文化的に優れた映画を楽しむことのできる映画館を期間限定で設置します。今年のCLARK THEATERのテーマは「ジェネレーション~変わるもの・変わらないもの~」。映画を通して世代間をこえて様々な「変わるもの・変わらないもの」に気づいてもらえればと思います。北大発第3弾ショートフィルムの上映、クラーク会館の原点に立ち返り35ミリ映写機によるフィルム映画の上映など、多種多様な企画を取り揃えています。スタッフ一同皆様のご来場を心よりお待ちしております。
- b 北海道大学 クラーク会館 c 日本語・英語 d 不要(有料) e 北大映画館プロジェクト実行委員会2011 g 北大映画館プロジェクト実行委員会2011 TEL:080-5583-2705 E-mail: info@clarktheater.jp http://www.clarktheater.jp/

40

11月5日(土) 10:00~

第15回 アイヌ語弁論大会 イタカン ロー ~アイヌ語で話しましょう!~

- a アイヌ語弁論大会「イタカン ロー」は平成9年から開催しており、今年で15回目を迎えます。現在アイヌ語を学ぶ人は道内をはじめ全国各地におり、アイヌ語弁論大会はそうした人たちが日頃の学習成果を発表する場となっています。今年もアイヌ語による弁論部門のほか、カムイユカラをはじめとした口承文芸部門に多くの方々が出場します。本大会は日頃なかなか耳にすることの少ないアイヌ語をじっくり聞ける貴重な大会となっております。スタッフ一同皆様のご来場を心よりお待ちしております。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・アイヌ語 d 不要(無料) e 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 f 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター g 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 TEL:011-271-4171 FAX:011-271-4181 E-mail: ainu@frpac.or.jp http://www.frpac.or.jp/

41

11月5日(土)・6日(日)

ノーベル化学賞受賞記念プログラム 北大ショートフィルム第3弾上映会&鈴木章先生トークショー

- a 北海道大学で製作された短編映画第3弾「緑の足跡」のワールドプレミア上映会を行います。北海道大学夏編として、今回はノーベル賞受賞者の鈴木章先生の一生をモチーフにした、ある北大の研究者にスポットをあてました。約10分の短編映画の上映会と、今回特別出演していただいた鈴木章先生もお招きしたトークショーを開催(5日開催時)します。また、過去製作された秋編「銀杏の樹の下で」冬編「零下15度の手紙」も同時上映(6日)します。北海道大学のキャンパスをフィルムを通じてご堪能下さい。
- b 北海道大学 クラーク会館 c 日本語 d 不要(トークショー付き:1,000円、上映のみ当日:500円、上映のみ前売り:400円) e 北大ショートフィルム製作委員会 f 北大映画館プロジェクト実行委員会2011 g 北大映画館プロジェクト実行委員会2011 TEL:080-5583-2705 E-mail: info@clarktheater.jp http://www.hokudai-film.com/

イベントスケジュール

● 主な対象

日 程	行 事 名	専門家	大学生 院 生	一般市民	高校生	その他	35	36	37	38
9/25(日)	33 日韓中テレビ制作者フォーラム 国際シンポジウム「東アジアとメディアの新たな可能性」	●	●	●						
10/16(日)	7 「健康を創る最先端技術と健康マネージメント」	●	●	●						
10/22(土)	8 現代社会におけるリスク分散のあり方と環境教育	●	●	●						
10/22(土)・23(日)	13 GMどうみん議会		●	●						
10/22(土)	14 第8回プレゼン・ディベート大会 札幌市の交通デザイン	●	●	●	●					
10/23(日)	9 シンポジウム 「被災地の復興と人材育成ー持続的社会的構築のための社会起業の可能性」	●	●	●		企業 NPO 自治体				
10/23(日)	34 キャンドライズ2011		●	●	●	小中学生				
10/24(月)	1 オープニング・セレモニー 未来へ向けた一歩	●	●	●			10/24			
10/24(月)～11/6(日)	35 ペロタクシー DE おしゃべり&ECO 2011	●	●	●	●	小中学生		10/25		
10/25(火)～10/30(日)	36 第3回サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト I	●	●	●						
10/26(水)	15 サステナブルキャンパス国際シンポジウム2011	●	●	●	●					
10/26(水)	24 現代社会の呪縛構造ー社会環境・生活習慣に潜む病根ー	●	●	●	●					
10/26(水)	25 JSPS 東アジア若手研究者招聘セミナー「口腔科学を通じた持続可能な国際交流」	●	●							
10/27(木)	26 社会格差への教育の挑戦	●	●	●						
10/27(木)・28(金)	27 日本セラミド研究会 第4回学術集会	●	●							
10/28(金)	3 オープニングセッションー持続可能な連携のためにー		●	●		教員				
10/28(金)	28 国際シンポジウム「アフリカ・サブサハラにおける衛生問題に対する挑戦」 ー持続可能な水と衛生に関する第2回 AMERI-EAUR ワークショップ/ 第8回持続可能な衛生に関する国際会議ー	●	●							
10/29(土)	29 国際シンポジウム「ワーク・ライフ・バランス: 持続可能な幸福の追求」	●	●	●		行政 関係者				
10/29(土)・30(日)	30 地域医療フォーラム	●	●	●						
10/30(日)	2 GIFT2011 持続可能な世界へ12のメッセージ ～Global Issues Forum for Tomorrow～	●	●	●						
10/30(日)	16 Greenerになろう! 持続可能な北海道のために ーグリーン購入促進に向けた展示及びパネルディスカッションー	●	●	●	●		10/30			
10/31(月)	4 北方圏の環境研究に関するシンポジウム	●	●	●	●					
10/31(月)	10 ジョイント公開講演会「持続可能な都市システムの構築をめざして」	●	●	●						
10/31(月)	37 留学希望者向けセミナー:SD on Campus	●	●			北海道大学 学生		11/1		
11/1(火)	5 国際シンポジウム「北方のツーリズムと景観」	●	●	●						
11/1(火)～6(日)	36 第3回サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト II	●	●	●					11/2	11/2
11/2(水)	6 国際シンポジウム「先住民族と教育」	●	●	●						
11/2(水)	17 産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来Ⅲ	●	●	●	●					
11/2(水)～4(金)	38 遊ぶ・学ぶ・働く ー持続可能な発達の支援のためにー	●	●	●						
11/2(水)～6(日)	39 学生企画 CLARK THEATER 2011	●	●	●	●	小中学生				
11/3(木)	11 ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ「あの日からの復興ー健康科学の視点からー」		●	●	●					
11/3(木)	12 環境・エネルギーシンポジウム ー震災復興、自然エネルギー、北海道のカー	●	●	●	●					
11/4(金)	31 健康な高齢社会の構築と持続可能な発展	●	●	●						
11/4(金)	18 ドキュメンタリー映画「タイガからのメッセージ」特別試写会 in 札幌	●	●	●	●	小中学生				
11/4(金)	19 グリーン回路とシステムに関する国際ワークショップ	●	●	●						
11/5(土)・6(日)	20 第2回 アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合	●	●	●						
11/5(土)	21 全球陸域プロジェクト(GLP) オープン・ワークショップ:アジアの陸域システムの脆弱性、回復力、持続性	●	●							
11/5(土)	40 第15回アイヌ語弁論大会 イタカン ロー ーアイヌ語で話しましょう!ー	●	●	●	●	小中学生				
11/5(土)・6(日)	41 ノーベル化学賞受賞記念プログラム 北大ショートフィルム第3弾上映会&鈴木章先生トークショー	●	●	●	●	小中学生				
11/6(日)	22 パブリック・フォーラム: ヒマラヤからみた温暖化ー氷河の変動と災害		●	●	●		11/6	11/6		11/6
11/6(日)	23 サステナブルキャンパスコンテスト		●	●	●					
12/3(土)	32 「痛っ」のサイエンス	●	●	●		歯科医師 医師				

※行事が変更になる場合があります。最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。 <http://www.asustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

札幌キャンパスマップ



A 学術交流会館 33 9/25(日) 8 10/22(土) 9 10/23(日) 36 10/25(火)~30(日) 15 10/26(水) 24 10/26(水) 26 10/27(木) 27 10/27(木)・28(金) 28 10/28(金) 30 10/29(土)・30(日) 16 10/30(日)	 4 10/31(月) 10 10/31(月) 5 11/1(火) 6 11/2(水) 17 11/2(水) 12 11/3(木) 18 11/4(金) 20 11/5(土)・6(日)
B 百年記念会館 3 10/28(金) 21 11/5(土)	
C 中央ローン 34 10/23(日)	
D クラーク会館 29 10/29(土) 39 11/2(水)~6(日)	
E 人文・社会科学総合研究棟 14 10/22(土) 38 11/2(水)・3(木)	
F 教育学部 38 11/4(金)	
G 保健科学研究院 7 10/16(日) 11 11/3(木)	
H 歯学部講堂 25 10/26(水) 32 12/3(土)	
I 医学部フラテホール 31 11/4(金)	
J 情報科学研究科 19 11/4(金)	
K 遠友学舎 13 10/22(土)・23(日)	

サステナビリティ・ウィーク2011 事務局 北海道大学 国際本部国際連携課内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目 電話:011-706-8031 FAX:011-706-8036 E-mail: office1@sustain.hokudai.ac.jp

■ 詳しい情報はウェブサイトで公開しています。

<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

総括



オープニング・セレモニーで説明する本堂理事・副学長

サステナビリティ・ウィーク2011を振り返って

サステナビリティ・ウィーク2011実行委員長
国際担当理事・副学長 本堂 武夫

北海道大学サステナビリティ・ウィークは、2011年、節目となる5年目を迎えました。平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、東北地方を中心に大きな被害をもたらしたことから、テーマを「再考」としました。大災害をきっかけとして、これまでの成長の歩みを、今一度考えてみる。実は自然の猛威と常に隣り合わせに生活している状況下の「持続可能な社会」とはどのような社会なのかを考える必要があります。その上で、私たちにできることは何かを、多くの人たちとともに考える機会にしたいという気持ちを、このテーマに込めました。

節目の年にふさわしいテーマを掲げたサステナビリティ・ウィーク2011では、10月24日(月)から11月6日(日)までの2週間に36行事が開催されました。これに前後期間の関連行事を合わせると47の行事が札幌キャンパスに集いました。

企画の全体像

例年と同様に、行事の形式は実に多様で、国際シンポジウムや市民向けセミナー、映画上映、ディベート大会、展示、研究ポスターコンテストから、学生が主催するアイデアコンテストや弁論大会、キャンドル・ナイトの他、ラジオ放送もありました。学生による自転車タクシーの運行は、キャンパスを訪れる市民の目にも止まることから、サステナビリティ・ウィークを象徴する行事になったように思います。このように様々な手法、媒体を通じて、持続可能な社会づくりへの関心を高め、最新の研究成果が共有されるとともに、将来に向けた議論が行われました。

すべての行事を目的に合わせて大きく分けると以下の4つに分類できます。

1. リスクの中で生き抜く:災害への予防と対応を考える6企画
2. 健やかに人間らしく生きる:Well-beingとQOL(Quality of Life)を考える12企画
3. 調和を見いだす:自然の恩恵を意識し環境を損なわずに暮らす道を模索する15企画
4. 未来への学び:叡智や課題を分かち合い、学びあう14企画

これらの行事の開催にあたっては、海外の研究機関や国際機関、北海道のみならず全国規模の公益法人や民間企業が、共催者や後援者として、このウィークを支えてくださいました。本学の取組に賛同くださる方々が増えていることを喜ぶとともに、皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。

国際ネットワークの充実

海外協定校からは、ネパールのトリプバン大学やフィンランドのラップランド大学の学長をはじめ、様々な研究所の所長、また、ブルキナファソ国の農業水利大臣や駐日フィンランド大使といった外国政府要人が、サステナビリティ・ウィークのために来訪くださいました。

この中で特筆すべきは、フィンランドの諸機関との共催により「北海道ーフィンランド・デイズ」と冠した4つの行事を開催したことです。平成23年3月にフィンランドセンター北海道事務所が開設され、今年の春には本学のヘルシンキオフィスを設置する。この一連の連携を踏まえた共同開催は、我々の協働関係を次の局面へと発展させる良い機会となりました。

このような組織的な国際交流の実績は、サステナビリティ・ウィークが本学の目指している「世界に開かれた交流プラットフォーム」としての機能を備えつつあるという手応えを感じさせます。

サステナビリティ・ウィーク2011の特徴1: SNS

時代を反映し、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)を活用しました。サステナビリティ・ウィーク事務局をはじめ、数多くの行事企画者がツイッターやフェイスブックを活用して広報しました。その中でも、10月30日に開催した全学企画「GiFT: Global Issues Forum for Tomorrow」は、本学研究者による講演の様子をインターネットで生放送し、会場以外の視聴者からはツイッターで即時に質問を集め、講演者が回答するといった方法により、日本全国の人と行事を共有しました。このように、新しい技術を導入してサステナビリティの議論の輪を広げ、協力のネットワークを築いていくことは、今後ますます重要になると考えます。

サステナビリティ・ウィーク2011の特徴2: サステイナブル・キャンパス

本学は、平成22年11月にサステイナブル・キャンパス推進本部を開設しました。本学の研究・教育活動を、より環境負荷を低くする取組を加速させる今、世界の大学でサステイナブル・キャンパスに関わる専門家を招へいして10月26日に国際シンポジウムを開催しました。環境保全と経済活動が調和する持続可能な社会のひとつのモデルを提示するために、本学のキャンパスを活かした研究の必要性を再認識された機会となりました。

サステナビリティ・ウィーク2012に向けて

2008年のG8大学サミットで採択された「札幌サステイナビリティ宣言」を具体化するひとつの方策として、平成24年も第6回目となるサステナビリティ・ウィークを開催します。持続可能な社会実現の担い手が世界中から集まり、議論する機会を提供するために、北海道大学はしっかりと準備してまいります。